

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問 I～IIIおよび大問Vのここ4年の総語数は「2,364→2,436→2,535→2,253」で推移している。

## 出題の特徴や昨年との変更点

大問数・設問数・設問構成ともに、18年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式が続いている(本文から「連続した3語以上」を借用することはできないことに注意)。

## その他のトピックス

文化構想学部と同一の出題形式である。

## &lt;大問分析&gt;

| 番号  | 区分   | 出題分野・テーマ  | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)  | 難易度 |
|-----|------|---|---|-----|
| I   | 読解総合 | (A)「スポーツの負の側面」(252 words)<br>(B)「歴史記述の嘘」(268 words)                           | 空所補充問題<br>品詞や構文だけでなく、文脈にも注意して解いていく必要がある。例年に比べると、内容面でも語彙レベルにおいても取り組みやすいものになっている(年度によっては、選択肢に難単語が含まれることがあるが、消去法で対応できるようになっている)。 | やや易 |
| II  | 読解総合 | (A)「動物の睡眠パターン」(161 words)<br>(B)「伝記作家の役割」(292 words)<br>(C)「作家の日記」(514 words) | 内容一致問題 (タイトル選択を含む)<br>英文・選択肢ともに難解な表現は少なく、リード文や選択肢のキーワードを手がかりに、解答の根拠となる部分を見つけていくとよい。なお、2023年度に引き続き、設問24でタイトルを選択させる問題が出題されている。  | 標準  |
| III | 読解総合 | 「多言語使用と英語」(523 words)   | 空所への文補充問題<br>空所直後の指示語(代名詞など)や人名に加えて、時代背景や論理指標を手がかりにして、埋めやすいところから答えていくと効率的に解くことができる。   | 標準  |
| IV  | その他  | 会話文<br>男と幽霊の会話 (208 words)  | 空所補充問題<br>7つの空所に対して選択肢は13と多いが、空所に入れる品詞や前後の文脈に着目することで、検討すべき選択肢を絞ることができる。ただし、状況設定が特殊で、会話の流れを理解するのに苦労するものもある。                    | 標準  |
| V   | 英作文  | 「多様性への賛否」(243 words)  | 英文に対する要約文を完成させる問題<br>与えられた書き出し部分から、「多様性のプラス面」についてまとめることがわかる。10語以内でどのような内容にまとめるかがポイントとなる。                                      | やや難 |

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要であるので、設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。大問Ⅴの一文要約の問題では、問題文と与えられた書き出しとの整合性を考えながら解答を書く必要がある。英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。